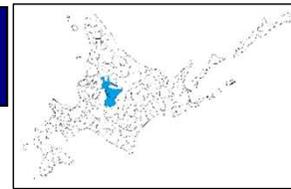


JR富良野線連絡会議

平成29年1月5日設置



概要

JR富良野線は、旭川～富良野間 18駅(うち有人駅 4駅・臨時駅 1駅)、54.8kmの路線で、旭川市・美瑛町・上富良野町・中富良野町・富良野市の2市3町にわたる路線である。

○JR北海道富良野線の輸送密度及び収支

(R5年度末現在)

- ・輸送密度 1,233人/日
- ・営業損益 △1,308百万円
- ・営業係数 457円

○JR北海道富良野線の課題

観光利用の促進

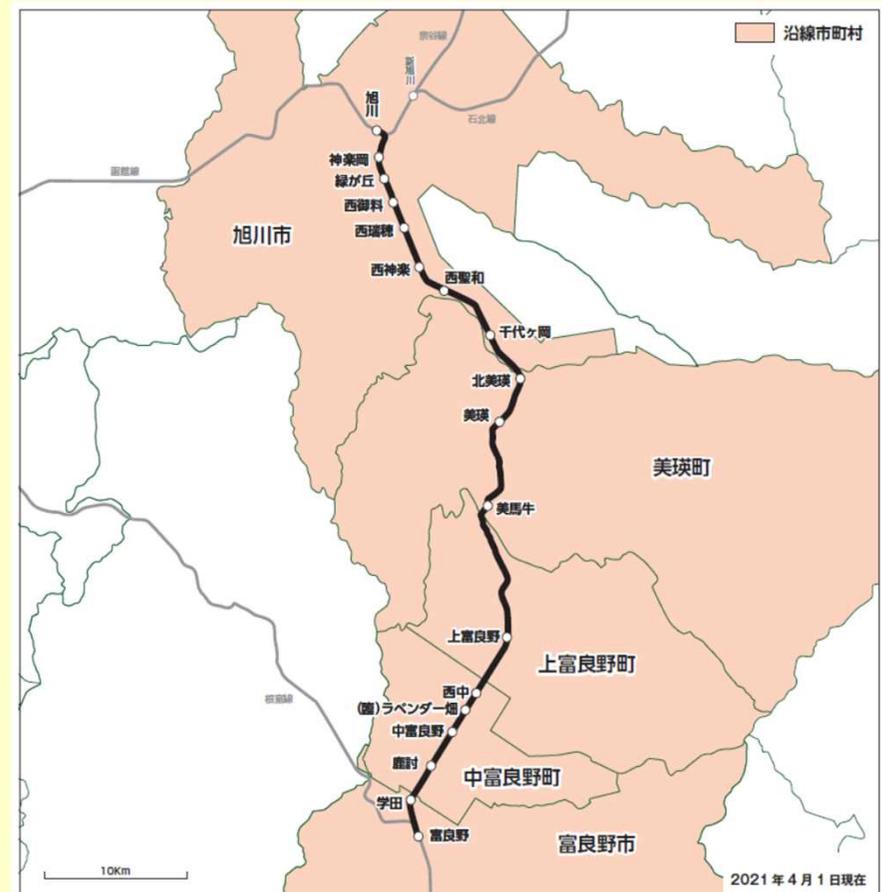
○地域公共交通再構築調査事業の主な内容

- ・観光地、観光施設等と連携した利用促進
- ・札幌～富良野間特急運行事業
- ・かみくるパスによる鉄道とバスの共通乗車実証事業

○JR富良野線連絡会議開催状況

- 5月10日第1回連絡会議を開催
 - ・令和5年度決算及び令和6年度予算について
- 9月9日第2回連絡会議を開催
 - ・令和6年度事業計画(実証事業)について
- 11月11日第3回連絡会議
 - ・令和6年度事業計画(実証事業)の変更について
- 3月24日第4回連絡会議を開催
 - ・地域公共交通再構築調査事業の事業評価を承認

JR北海道富良野線の概要



●事業の結果概要

観光地，観光施設等と連携した利用促進事業



事業を周知するポスターを札幌駅、沿線駅や施設に設置

○事業概要

実施期間令和6年12月14日～令和7年2月28日

JR富良野線の利用者に対し観光地への2次交通や観光施設等の割引を行い，富良野線の利用促進を図る。

○目標

割引件数 9,450件

○実績

後藤純男美術館	0
吹上温泉保養センター白銀荘	8
フロンティアフラヌイ温泉	8
十勝岳温泉湯元 凌雲閣	6
スパ&ホテルリゾートふらのラテール	13
富良野市中心市街地活性化センター ふらっと	0
「美瑛駅前～国立大雪青少年交流の家」間の路線バス1日乗車券	425
合計	460

・「美瑛駅前～国立大雪青少年交流の家」間の路線バス1日乗車券の利用が大半を占めた。（本事業とあわせて実施した独自事業のアンケート調査結果によると20代～30代のインバウンドの利用が大半）

・鉄道利用者への2次交通の割引については，路線バスの1日乗車券を販売したことで，利便性の向上と2次交通の運賃支払いの際の混雑緩和に寄与した。

●事業の結果概要

札幌～富良野間特急運行事業



札幌～富良野間を「冬のラベンダー号」として特急運行

○事業概要

実施期間令和7年2月8日～令和7年2月9日

冬期間に札幌～富良野間で特急列車を直通で運行することにより、冬期の観光客の利便向上を図ることで、観光輸送の増加や増収に資する。富良野線内の停車駅は、旭川駅、美瑛駅、富良野駅の3駅。

○目標 乗車人数133人

○実績

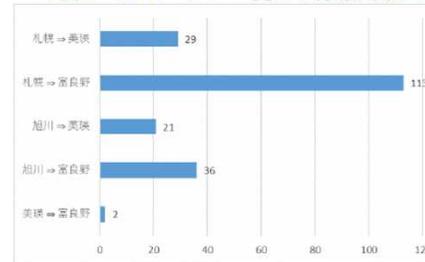
乗車人数

	2月8日	2月9日	合計
下り(旭川→富良野)	155	115	270
上り(富良野→旭川)	79	100	179
計	234	215	449

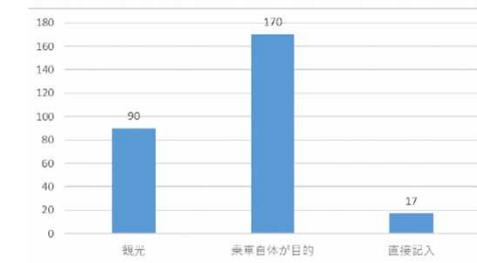
2日間の合計乗車人数449人のうち30%の136人が外国籍

アンケート調査より

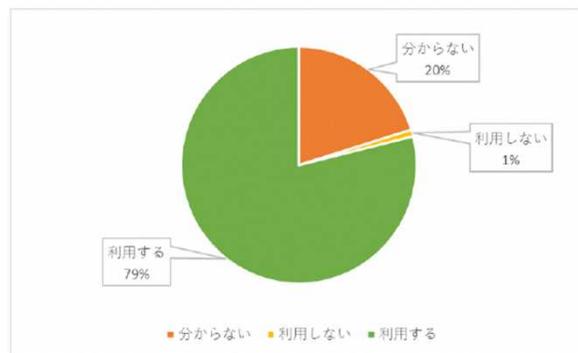
今回の「冬のラベンダー号」のご利用区間は？



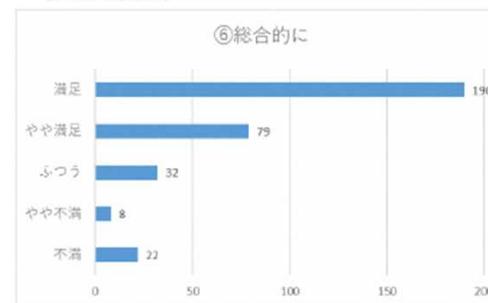
今回「冬のラベンダー号」をご利用された目的は何でしたか？(複数回答可)



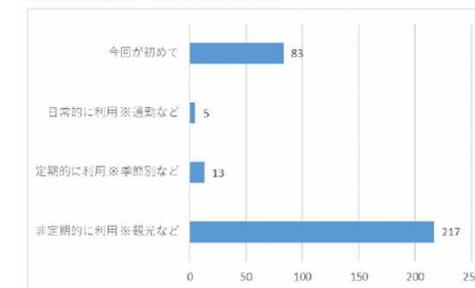
今後も「冬のラベンダー号」を運行した場合、利用すると思いますか。



今回「冬のラベンダー号」をご利用いただいたの満足度合をお答えください。



富良野線(旭川～富良野間)のご利用の頻度を教えてください。
※(片道・往復共に)一日利用を1回とカウント



●事業の結果概要

かみくるパスによる鉄道とバスの共通乗車実証事業

○事業概要

実施期間 令和7年2月1日～令和7年2月28日

かみくるパス(上川管内観光用バス乗車券)の仕組みを活用し、鉄道及びバスの共通乗車を実施することにより、JRとバスの需要の変化を実証。

○目標

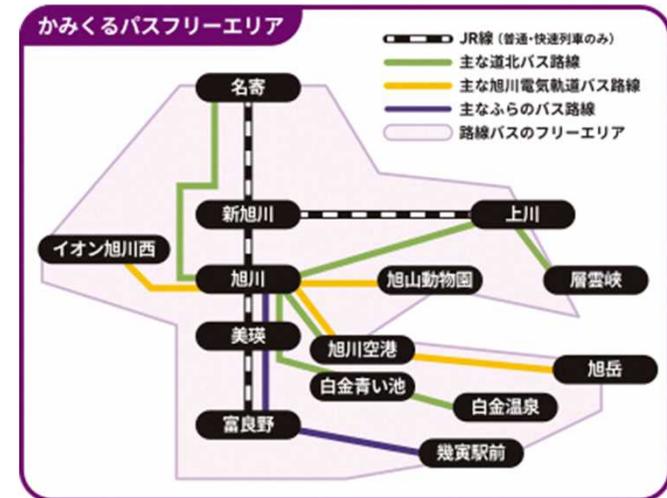
期間中の発売枚数580枚、うち鉄道利用の割合を半数の290枚

○実績

発売枚数 265枚 うち鉄道の利用枚数 217枚

アンケート結果より

- ・ パスの利用者は20歳代が29.4%と一番多く、20歳代から40歳代が全体の7割を占めた。
- ・ 道外・道内の割合は約6:4で道内のうち上川管内が約7割、札幌近郊が約2割。道外は首都圏が約8割となった。
- ・ パスを利用目的は、観光が約8割。目的地は約9割の利用者が旭川市をあげており、以下美瑛町、上川町、富良野市、名寄市が続いた。
- ・ JRの利用が可能となったことが、購入のきっかけとなったとの回答が8割を超えた。
- ・ JR利用に追加料金が必要となっても、4割弱の利用者が購入を検討できると回答。(追加料金が1,000円以下であれば検討できるとの回答が約3割)



JR富良野線連絡会議 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の今後の改善点(特記事項含む)

(観光地、観光施設等と連携した利用促進事業)

- ・鉄道利用者への観光施設等の利用割引については一定の効果はあったものの、施設と連携する等の更に効果を高める周知が不足した。
- ・今後の事業実施に当たっては、鉄道利用のインセンティブ見直しのほか、効果的な周知について検討を行う必要がある。

(札幌～富良野間特急運行事業)

- ・観光輸送の増加や増収に寄与することができ目標は達成された。今後は更なる効果検証を行うため、関係者と検討を進める。

(かみくるパスによる鉄道とバスの共通乗車実証事業)

- ・今年度は国内在住者を対象として事業実施したが、今後はインバウンドを取り込むことによる需要の変化についての検証の検討を進める。
- ・従来(バスのみ)のパスと鉄道とバスの利用が可能なパスの発売価格に差をつけるなど、鉄道の付加価値を踏まえたパスの発売価格の設定の検討を進める。
- ・パスの発売方式について、今年度使用したアプリ方式以外の方式等についても検討。

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は計画どおりに実施されている。
- ・観光地、観光施設等と連携した利用促進事業について、今後の事業実施においては、鉄道利用を促進するためのインセンティブの抜本的な見直しをご検討いただきたい。また、ターゲット層に確実に情報が届くような、より効果的な周知方法についてご検討いただきたい。
- ・札幌～富良野間特急運行事業について、今回得られた好結果を次年度以降の事業展開に活かすため、関係者と連携し、今後の具体的な効果検証の進め方や、次年度以降の事業計画の詳細について、ご検討いただきたい。
- ・かみくるパスによる鉄道とバスの共通乗車実証事業について、今後は、インバウンド市場に焦点を当てた具体的な検証計画の策定。加えて、価格設定モデルの構築及び代替発売方式の詳細について、深くご検討いただきたい。
- ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。